

岡山県感染症週報 2023年第20週 (5月15日～5月21日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

◆2023年 第20週 (5/15～5/21) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第19週 5類感染症 梅毒 2名 (40代 男 2名)
 第20週 2類感染症 結核 2名 (50代 女 1名、80代 女 1名)
 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 3名 (O157:20代 女 1名、80代 女 1名、O血清群不明:20代 男 1名)
 4類感染症 レジオネラ症 1名 (70代 女)
 5類感染症 急性弛緩性麻痺 1名 (幼児 男)
 梅毒 3名 (20代 男 1名、40代 女 1名、50代 男 1名)

子どもの予防接種
を確実に!



©岡山県「ももっち・うらっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ/COVID-19 定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で 176 名 (定点あたり 2.10 人) の報告がありました。

1. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で 176 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 1.50 人 → 2.10 人)。詳しくは「[★新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ「[『新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報』](#)」をご覧ください。
2. [インフルエンザ](#) は、県全体で 113 名の報告があり、前週とほぼ同数でした (定点あたり 1.49 → 1.35 人)。岡山県は「[インフルエンザ注意報](#)」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、備中地域 (3.00 人)、備北地域 (2.50 人)、真庭地域 (2.00 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ「[『2022/23年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中!』](#)」をご覧ください。

流行の推移と発生状況 (新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は別掲載)

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★★	RSウイルス感染症	⬆	★★
咽頭結膜熱	⬆	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⬆	★
感染性胃腸炎	⬆	★★	水痘	⬆	★
手足口病	⬆	★	伝染性紅斑	⬆	
突発性発疹	⬆	★	ヘルパンギーナ	⬆	★★
流行性耳下腺炎	⬆		急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	⬆	★	細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	⬆	★	マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移： ⬆：大幅な増加 ⬆：増加 ⬆：ほぼ増減なし ⬆：減少 ⬆：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

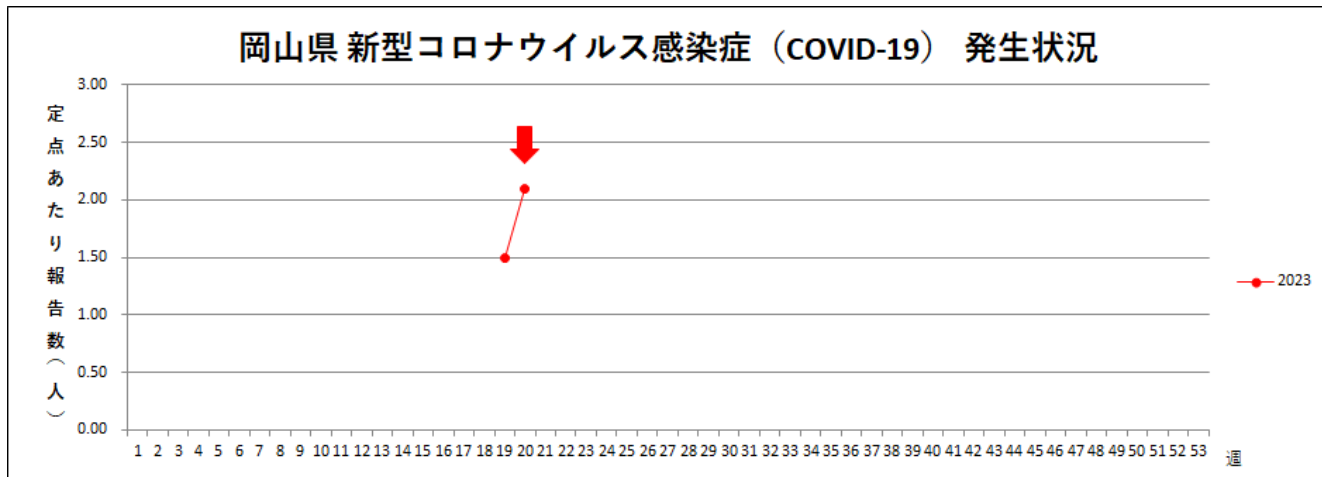
☆新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報

【発生動向の把握方法について】

これまでは全ての患者を把握する『**全数**』把握（2022年9月26日以降は簡略化）の方法でしたが、2023年5月8日（第19週）以降は、指定した医療機関（岡山県の定点医療機関数：84（内訳：小児科定点54、内科定点30））において1週間に診断した患者数を把握する『**定点**』把握の方法へ変更となりました。

岡山県の流行状況（2023年第20週（5/15～5/21））

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で176名（定点あたり2.10人）の報告がありました。



※ 2023年は定点把握対象へ移行した第19週から表示しています。

※ 全数把握時のデータは[こちら](#)

※ 2022年10月3日（2022年第40週）～2023年5月7日（2023年第18週）までの全数把握の患者数をもとに、2023年5月8日以降の定点医療機関からの報告患者数を抽出して集計した患者数の推移（参考値）はこちらをご覧ください。→ [全国](#)（厚生労働省HP）、[岡山県](#)（新型コロナウイルス感染症対策室HP）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で176名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり1.50人→2.10人）。地域別では、備北地域（5.33人）、備中地域（2.42人）、備前地域（2.20人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年代別では、30代を除く年代で前週から増加しました。基本的な感染防止策（効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3密（密閉・密集・密接）の回避、健康的な日常生活、ワクチン接種、体調不良時の備え）に留意し、自主的な判断により実施しましょう。

◆ゲノム解析の結果（全国の情報（岡山県の情報も含む））は[こちら](#)

[『SARS-CoV-2 変異株について』（国立感染症研究所ホームページ）](#)

●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。

通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中に留まりうることから、換気が不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。

●症状

日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と短く、また、発症前からウイルスを排出し、感染源となることが分かっています。上気道で増殖しやすい特性から、従来株（デルタ株等）に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があると考えられています（[日本におけるCOVID-19妊婦の現状（日本産科婦人科学会、2022年6月7日付報告）](#)）。

なお、罹患後症状（いわゆる後遺症）については、以下をご覧ください。

- ・ [罹患後症状のマネジメント・第2.0版（2022年10月14日発行）](#)
- ・ [『新型コロナウイルス感染症罹患後も続く症状（後遺症）にお悩みの方へ』（岡山県ホームページ）](#)



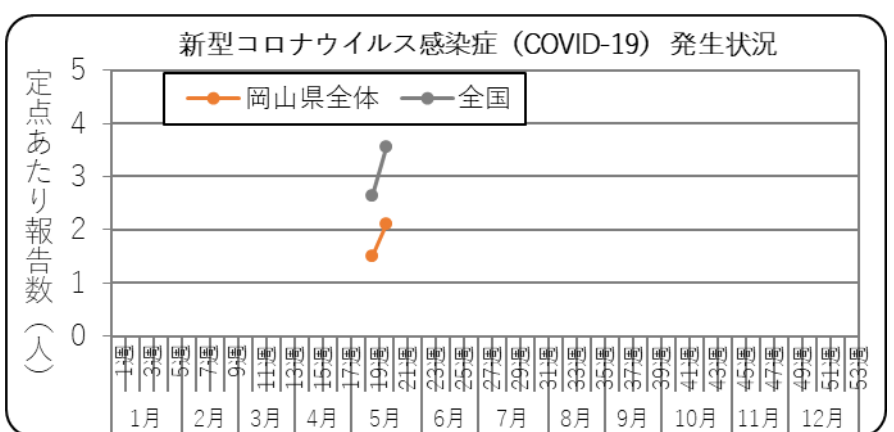
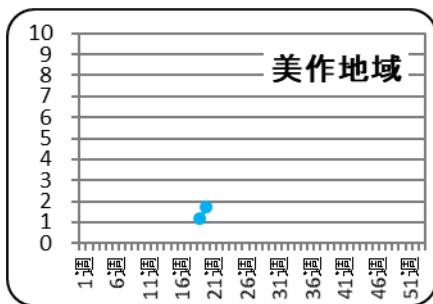
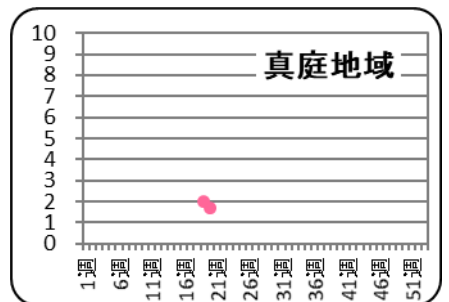
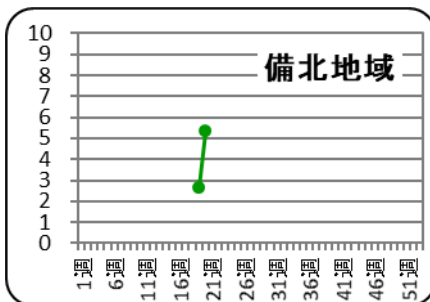
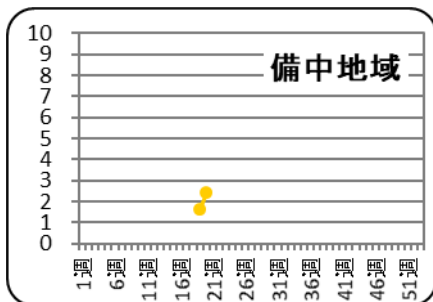
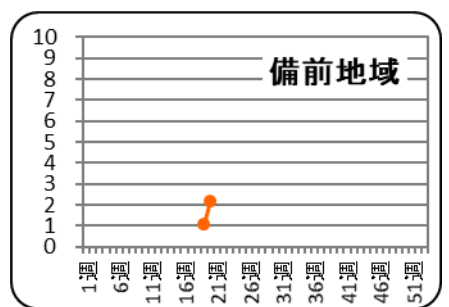
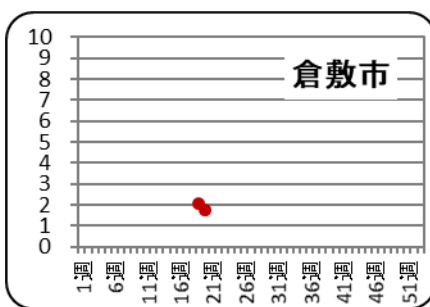
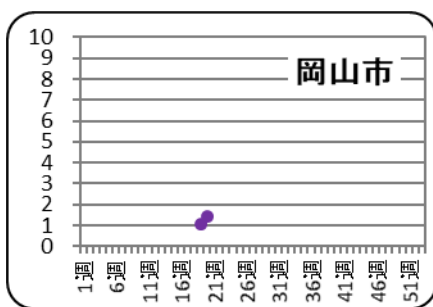
基本的な感染症対策！
ワクチン接種も大切！

1. 地域別発生状況

※前週からの推移は次週から表示します。

地域名	発生状況 (人)		推移	地域名	発生状況 (人)		推移
岡山県全体	患者数	176	↑	備 中	患者数	29	↑
	定点あたり	2.10			定点あたり	2.42	
岡山市	患者数	32	↑	備 北	患者数	32	↑
	定点あたり	1.45			定点あたり	5.33	
倉敷市	患者数	28	↑	真 庭	患者数	5	↑
	定点あたり	1.75			定点あたり	1.67	
備 前	患者数	33	↑	美 作	患者数	17	↑
	定点あたり	2.20			定点あたり	1.70	

【記号の説明】 前週からの推移 ↑ : 大幅な増加 ↗ : 増加 → : ほぼ増減なし ↓ : 大幅な減少 ↘ : 減少
 大幅 : 前週比 100%以上の増減 増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減



○全国の発生状況

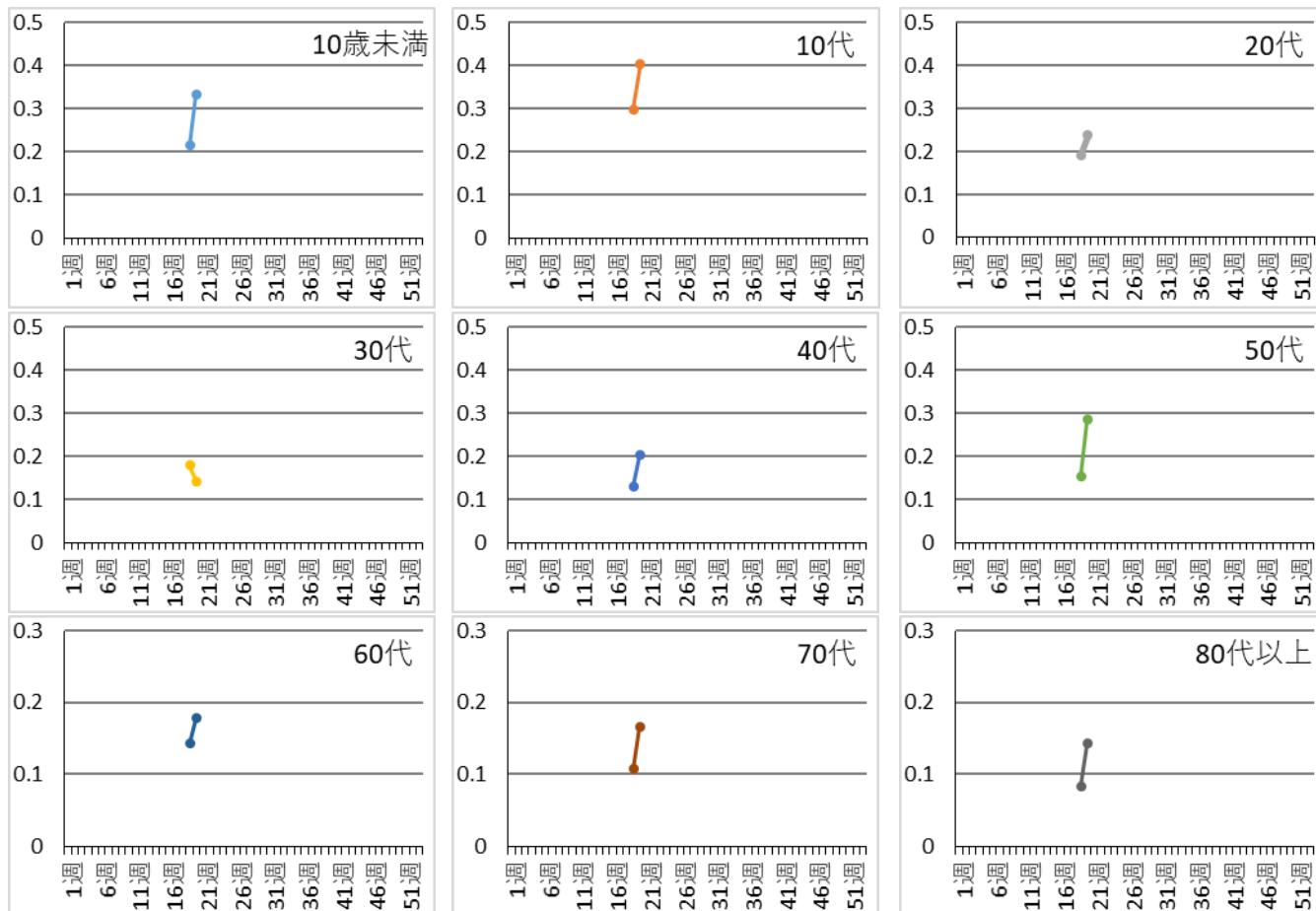
全国集計 2023 年第 20 週速報値 (2023 年 5 月 24 日時点) によると、全国の定点あたり報告数は 3.56 人となり、前週 (2.63 人) から増加しました。

2. 年齢別発生状況

○第20週（単位：人）

合計	0-3歳	4-6歳	7-9歳	10-14歳	15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
176	10	4	14	22	12	20	12	17	24	15	14	12

○年齢階級別の定点あたり報告数の推移（2023年第19週～）



📌 留意点：年齢階級別の報告数の考え方について

定点医療機関は、小児科定点が内科定点に比べて多く選択されているため、報告数は小児に偏ります。一方で、年齢階級別の報告数により、経時的な流行全体の傾向（トレンド）と水準（レベル）の把握および年齢階級ごとにおける流行の傾向と水準を把握することができます。

3. 入院状況

2023年5月24日時点

	全入院者数	確保病床使用率	
			重症者用
	63人	7.2% 41床/ 568床	4.2% 1床/ 24床
(参考) 前週	40人	5.3% 30床/ 568床	0.0% 0床/ 24床

6 / 1 ~ 6 / 7 は『HIV検査普及週間』です！

～ 知ることから始めよう。受けようエイズ検査 ～



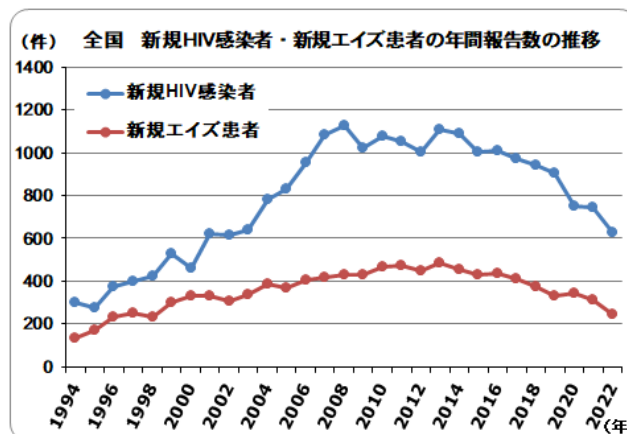
レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴

岡山県は、『受けやすい検査』『戦略的な普及啓発』『関係者の連携強化』を3本柱に、全県を挙げて、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染防止と「いきなりエイズ」*防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を実施しています。その作戦の重点実施期間である「HIV検査普及週間（6 / 1 ~ 6 / 7）」の事業として、6月中に県内の保健所・支所において、啓発や夜間の特例検査を実施しています。なお、特定の保健所・支所で実施しており、詳細はこちらをご覧ください。 → [【おかやまエイズ感染防止作戦】](#)

※「いきなりエイズ」とは、エイズ（AIDS 後天性免疫不全症候群）発症によって初めてHIVに感染したことが判明することです。HIV感染後エイズ発症まで、通常数年程度の期間を要するとされていますが、気づかずに過ごすため、HIV感染の治療の遅れとともに予期せぬ感染のひろがりにつながる可能性があり、対策が必要です。

1. 全国の新規HIV感染者と新規エイズ患者

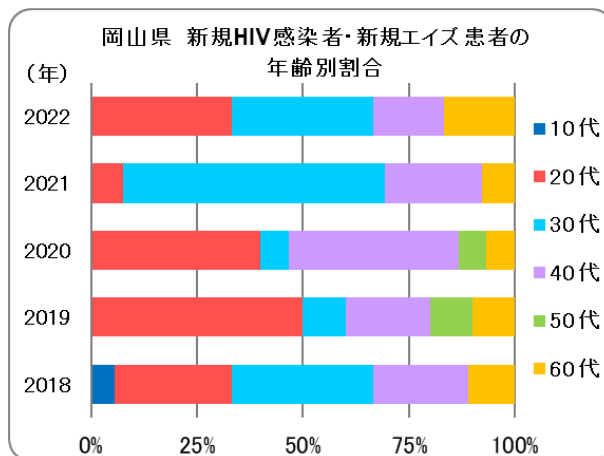
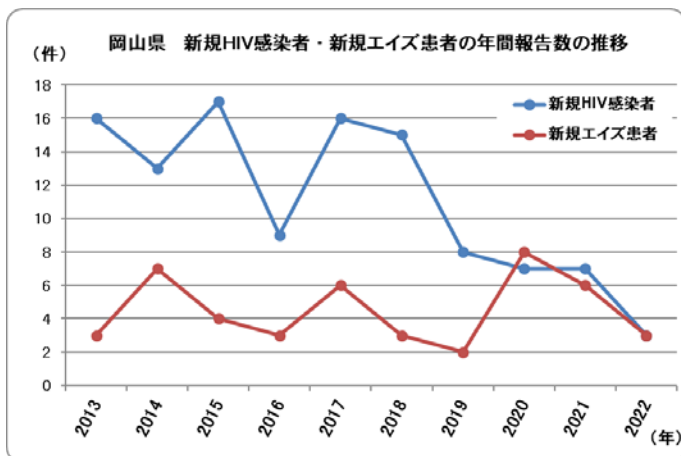
2022年の国内における新規HIV感染者と新規エイズ患者（いきなりエイズ）報告数の合計は870件（速報値）であり、2021年（1,057件）より減少しています。2020年および2021年は新型コロナウイルス感染症に伴う検査機会の減少等の影響で検査件数等が減少しており、無症状感染者が十分に把握できていない可能性があります。2022年は保健所等における検査件数が僅かに増加したものの、依然として新規エイズ患者報告数が全新規報告数の約3割のまま推移しており、HIV検査が適切に実施されていないことが示唆されています。



新規HIV感染者 …… HIVに感染しているものの、受診時にエイズを疑う症状がなかったもの。
新規エイズ患者 …… 受診時、すでにエイズを発症しており、「エイズ（AIDS）」患者として報告されたもの（すいきなりエイズ）でHIV感染者と報告され、後にエイズを発症した症例は除く）。

2. 岡山県の新規HIV感染者と新規エイズ患者

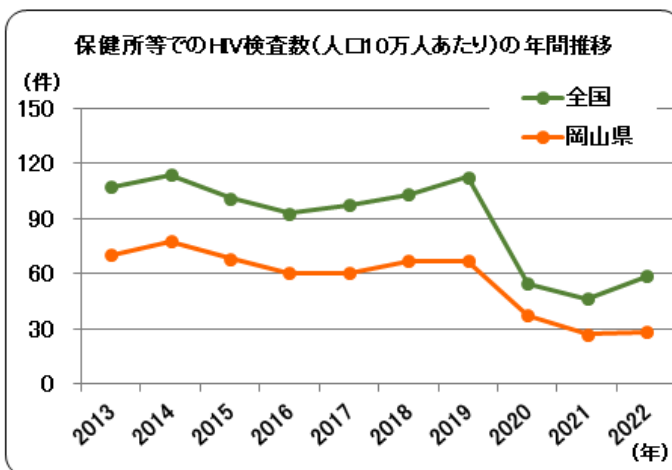
2022年の岡山県における新規HIV感染者と新規エイズ患者報告数の合計は6件であり、男性が6名、女性が0名でした。年齢別割合をみると、20~40代および60代で発生が報告されています。全新規報告数は前年からほぼ半減（2021年13件）しましたが、新規エイズ患者が引き続き報告されています（3名）。



3. HIV 検査について

岡山県内で自発的にHIV検査を受けた人の数は、2015年から減少傾向にあり、2018年からは微増していましたが、2020年および2021年は新型コロナウイルス感染症流行に伴う検査機会の減少等の影響により大幅に減少しました。2022年は僅かに増加したものの、2019年以前と比べ、少ない件数に留まっています。HIVに感染してからエイズ発症までは、通常数年程度自覚症状がない時期が続くため、感染していることに気づきにくく、知らないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。HIV治療は急速

に進歩しており、早期に感染を知り発症する前に適切な治療を開始できれば、定期的に通院しながら今までとほぼ同じ生活を送ることが可能です。HIVに感染しているかどうかは、HIV検査を受けないとわかりません。早期発見・早期治療がエイズ発症防止や感染拡大防止にも結びつくことから、拠点病院（一律1,000円）や保健所（無料・匿名）でのHIV検査を積極的に利用しましょう。



県内 10 か所のエイズ治療拠点病院において、検査を実施しています。

- *いずれの拠点病院でも一律 1,000 円で受けられます(要予約)。
- *検査は匿名では受けられませんので、ご注意ください。
- *検査結果は検査を受けた日(約 1~2 時間後)にお知らせします。
- *確実な検査結果を得るためには、感染機会があったと思われる日から、8 週間以上経過していることが必要です。
- *事前に電話での予約が必要です。

岡山県内では、HIV 検査普及週間中に特定の県内保健所・支所において、定休日以外や夜間でも検査を実施しています。

- *検査は無料・匿名で受けることができます。
- *通常検査では 1 週間後、迅速検査では 1 時間後に結果をお知らせしています。
- *確実な検査結果(性感染症を含む)を得るためには、感染機会のあった日から、3 か月たって検査することをおすすめします。
- *事前に電話で予約が必要です。

検査日時はこちらをご覧ください

⇒ [【おかやまエイズ感染防止作戦】](#)

梅毒等の性感染症にも
気をつけましょう



© 岡山県「ももっち」

～ ダニの活動が活発になる時期です ～ ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)***、**日本紅斑熱**、**つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(ディートやイカリジン含有)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。
体調不良の動物や野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [日本紅斑熱とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [ツツガムシ病とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 画像

＊子どもの予防接種を確実に！＊



厚生労働省リーフレットより

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。

予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診 \(厚生労働省\)](#)
[予防接種スケジュール \(国立感染症研究所\)](#)

風しんの抗体検査(無料)を受けましょう!

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群(CRS)*の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。
県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます](#) (岡山県健康推進課)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#) をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています(2025年3月31日まで)。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

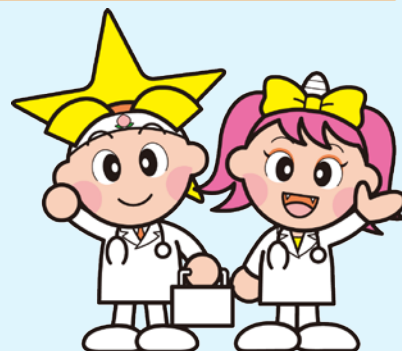
[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

3年間延長
されます!

岡山県の2019年4月~2023年2月の風しんのクーポン
使用実績(抗体検査)は、33.6%と未だに低い状況です!
CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を
受けましょう!

[風しんの追加的対策について\(厚生労働省\)](#)
[風疹に関する疫学情報\(国立感染症研究所\)](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト\(日本産婦人科医会\)](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

インフルエンザ週報 2023年 第20週 (5月15日～5月21日)

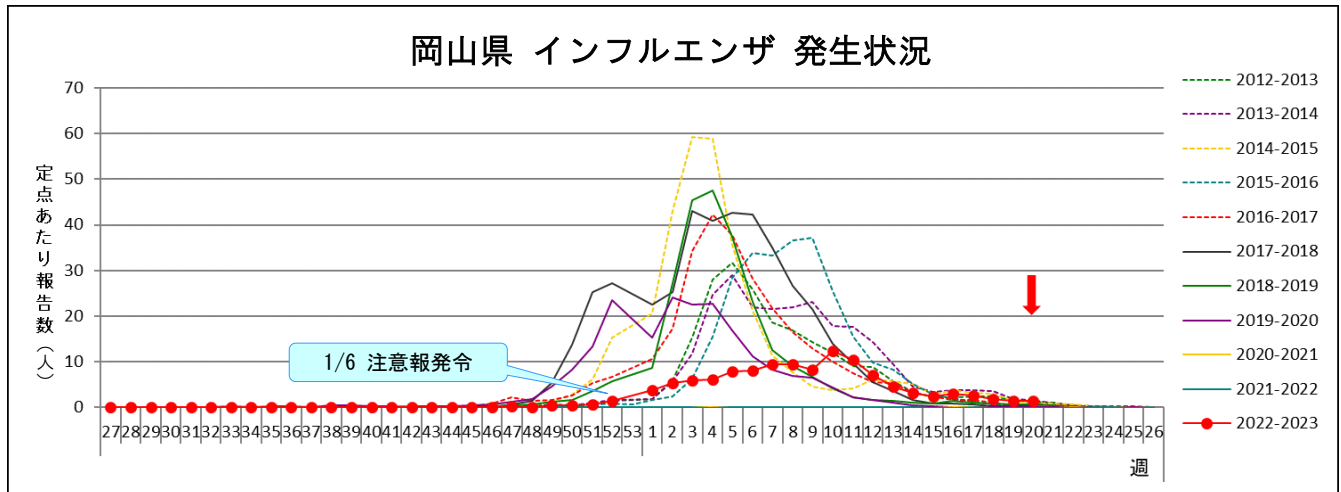
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で113名（定点あたり1.35人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が7施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者1名の報告がありました。

【第21週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が4施設でありました（5月22日～24日）。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で113名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり1.49 → 1.35人）。岡山県は「**インフルエンザ注意報**」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、備中地域（3.00人）、備北地域（2.50人）、真庭地域（2.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況に注意するとともに、体調管理にも留意し、感染予防に努めましょう。

◆インフルエンザを防ぐため、ひきつづき感染予防に努めましょう◆

（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行も踏まえた対応をお願いします。）

【予防と対策】

- 基本的な感染防止策の徹底
 - ・状況に応じたマスクの着用、手洗い、手指消毒の実施
 - ・室内の適度な湿度の設定、定期的な空気の入換え
 - ・高齢者や基礎疾患のある方などは、人混みを避ける
- 健康的な日常生活
 - ・十分な休養、バランスのとれた食事
- あらかじめの備え
 - ・インフルエンザワクチンの予防接種
 - ・新型コロナウイルス抗原定性検査キット（「体外診断用医薬品」もしくは「第一類医薬品」）や自宅療養に必要な解熱鎮痛薬等の購入



© 岡山県「ももっち」

【発熱等の症状が出た時は】

- 外出を控える
 - 周りの方へうつさないように「咳エチケット」を！
 - 水分を十分にとり、安静にして休養をとる
- ⇒ 詳細は岡山県ホームページ [『インフルエンザ対策について』](#) をご覧ください。

1. 地域別発生状況

地域名	発生状況 (人)		推移	地域名	発生状況 (人)		推移
岡山県全体	患者数	113	➡	備 中	患者数	36	➡
	定点あたり	1.35			定点あたり	3.00	
岡山市	患者数	17	➡	備 北	患者数	15	➡
	定点あたり	0.77			定点あたり	2.50	
倉敷市	患者数	17	➡	真 庭	患者数	6	➡
	定点あたり	1.06			定点あたり	2.00	
備 前	患者数	11	➡	美 作	患者数	11	➡
	定点あたり	0.73			定点あたり	1.10	

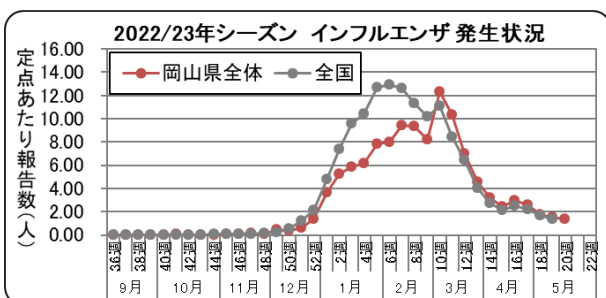
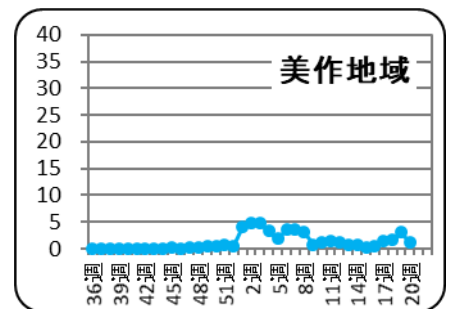
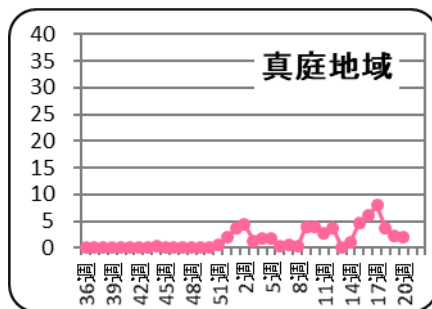
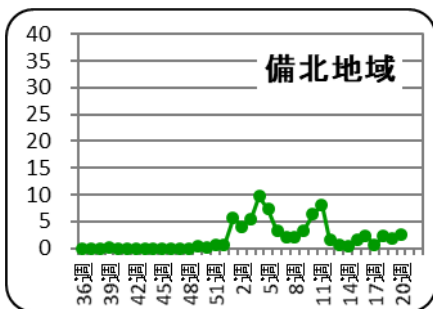
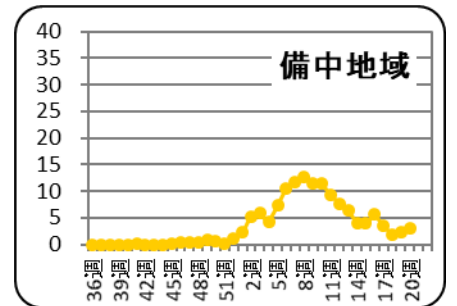
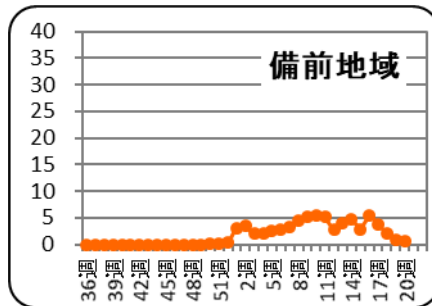
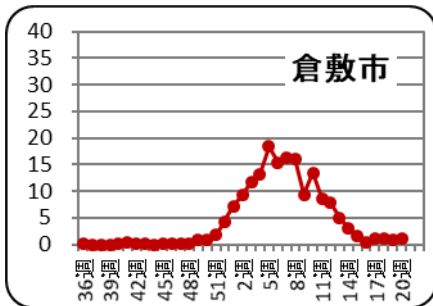
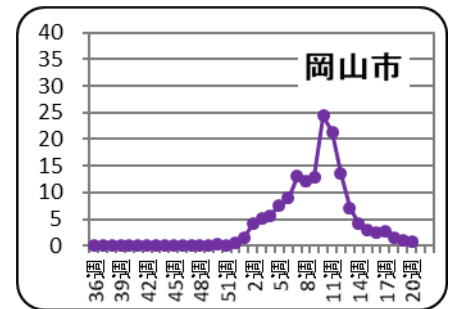
【記号の説明】前週からの推移 ⬆️ : 大幅な増加 ➡️ : 増加 ➡️ : ほぼ増減なし ⬇️ : 大幅な減少 ⬇️ : 減少
 大幅 : 前週比 100%以上の増減 増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0

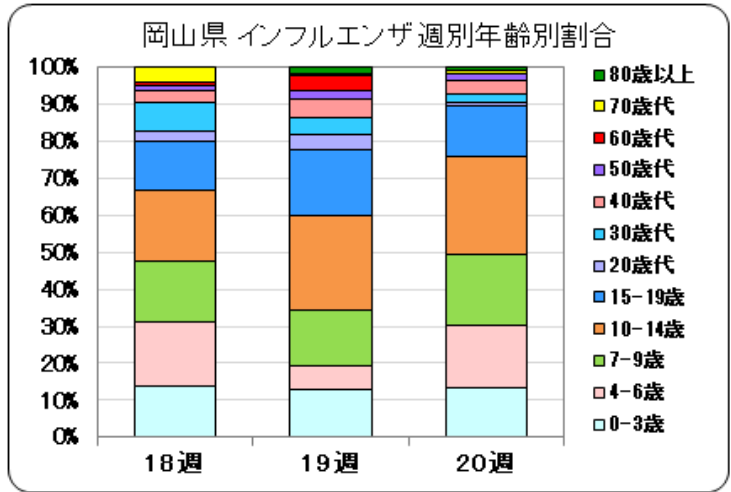
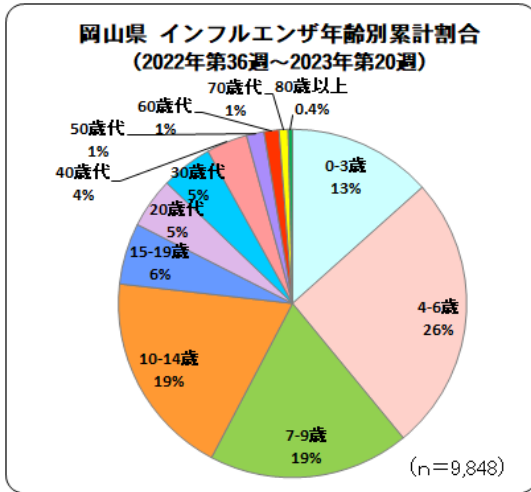


全国集計 2023 年第 19 週 (5/8~5/14) 速報値によると、全国の定点あたり報告数は 1.36 人となりました。都道府県別では、新潟県 (5.64 人)、山形県 (4.30 人)、宮城県 (3.28 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。32 都道府県で前週の報告数から減少しました。

[インフルエンザの発生状況について \(厚生労働省\)](#)

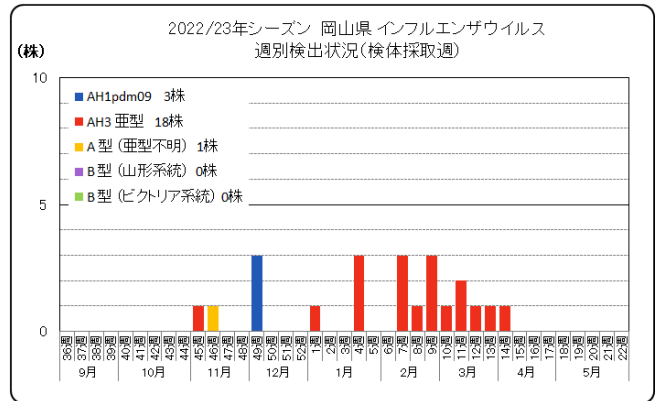
2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別累計割合は、以下のとおりとなっています。



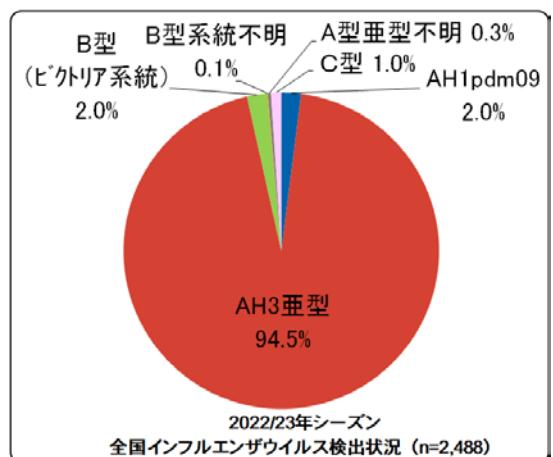
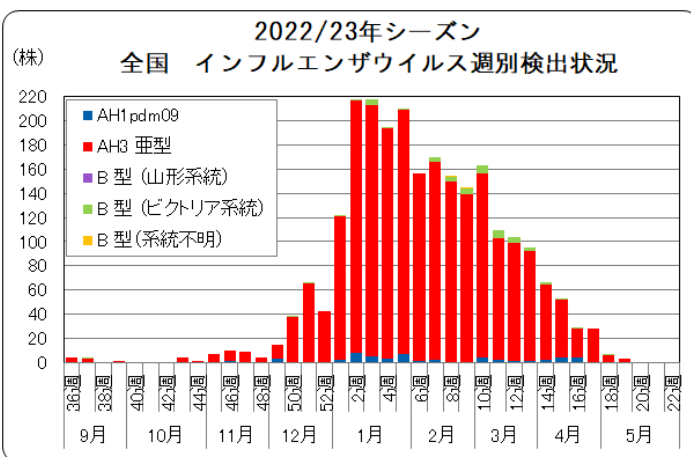
3. インフルエンザウイルス検出状況

2023年第20週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは22株で、その内訳は、AH1pdm09が3株、AH3亜型が18株、A型（亜型不明）が1株となっています。



今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09が50株、AH3亜型が2,351株、B型（ビクトリア系統）が51株、B型系統不明が2株、A型亜型不明が8株、C型が26株となっています（5月23日現在）。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)](#)

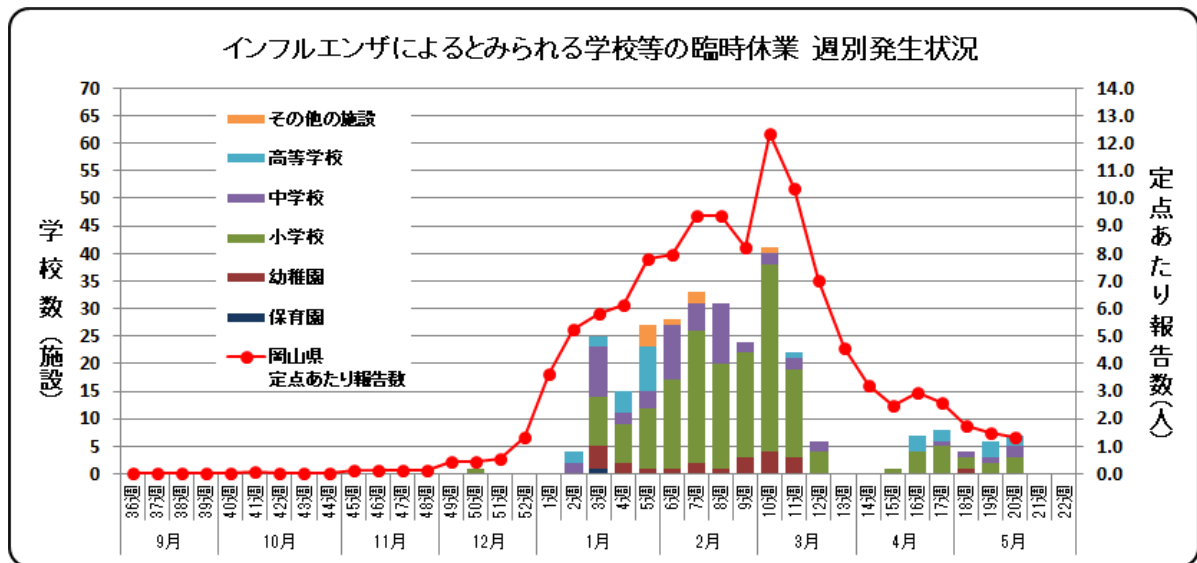


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、7施設でありました。

【第20週 臨時休業施設数】

▽倉敷市 1 ▽津山市 2 ▽笠岡市 1 ▽総社市 2 ▽和気町 1



1) 臨時休業施設数の内訳

第20週:7施設

累計:290施設

	保育園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	0	1	0	22	3	177	2	55	2	27	0	8

2) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

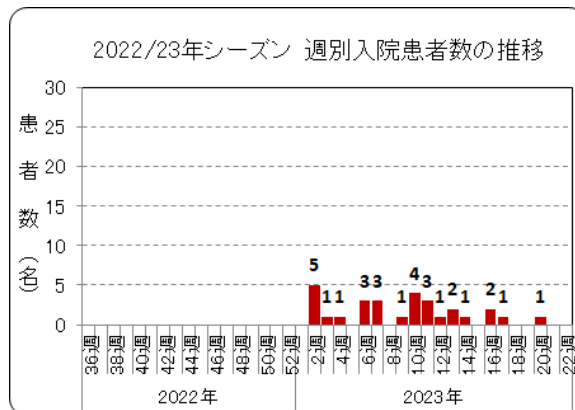
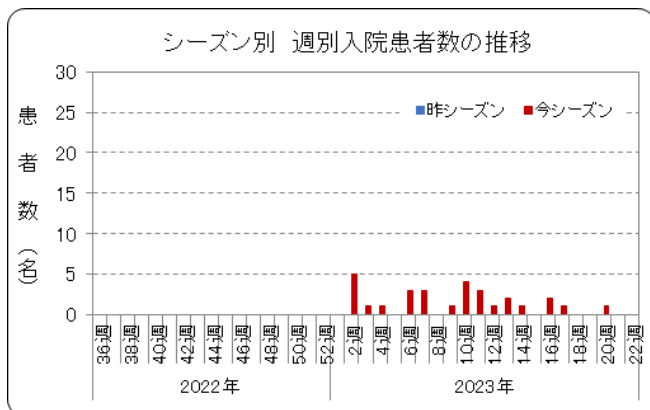
* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	87	4368	65	3820	7	290	0	6	1	55	6	229	R4.12.12
岡山市	0	1886	0	1683	0	118	0	1	0	8	0	109	R4.12.12
倉敷市	8	1097	5	955	1	77	0	1	0	8	1	68	R5.1.16
備前地域	25	290	14	257	1	26	0	1	0	10	1	15	R5.1.23
備中地域	30	750	25	625	3	41	0	1	0	14	3	26	R5.1.17
備北地域	0	37	0	34	0	3	0	0	0	1	0	2	R5.2.13
真庭地域	0	121	0	113	0	6	0	2	0	4	0	0	R5.3.6
美作地域	24	187	21	153	2	19	0	0	1	10	1	9	R5.1.17

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、1 名（20～29 歳 1 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずウトウトしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 20 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計*
入院患者数						1							1
ICU 入室 *													
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *													
頭部 MRI 検査(予定含) *													
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず						1							1

* 重複あり

【2022 年 9 月 5 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計*
入院患者数	2	9	5	4		1		1	4	1		2	29
ICU 入室 *									1				1
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *									1				1
頭部 MRI 検査(予定含) *		4	3	1									8
脳波検査 (予定含) *		1											1
いずれにも該当せず	2	5	2	3		1		1	2	1		2	19

* 重複あり

保健所別報告患者数 2023年 20週(定点把握)

(2023/05/15～2023/05/21)

2023年5月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	113	1.35	17	0.77	17	1.06	11	0.73	36	3.00	15	2.50	6	2.00	11	1.10
RSウイルス感染症	28	0.52	8	0.57	8	0.73	2	0.20	7	1.00	-	-	-	-	3	0.50
咽頭結膜熱	28	0.52	8	0.57	5	0.45	-	-	6	0.86	1	0.25	-	-	8	1.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20	0.37	8	0.57	1	0.09	2	0.20	9	1.29	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	311	5.76	102	7.29	64	5.82	63	6.30	41	5.86	11	2.75	-	-	30	5.00
水痘	5	0.09	2	0.14	-	-	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	-	-
手足口病	36	0.67	6	0.43	14	1.27	4	0.40	8	1.14	4	1.00	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	11	0.20	5	0.36	1	0.09	1	0.10	2	0.29	1	0.25	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	25	0.46	9	0.64	2	0.18	2	0.20	2	0.29	-	-	-	-	10	1.67
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2023年 20週(発生レベル設定疾患)

(2023/05/15～2023/05/21)

2023年5月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	113	1.35	17	0.77	17	1.06	11	0.73	36	3.00	15	2.50	6	2.00	11	1.10
咽頭結膜熱	28	0.52	8	0.57	5	0.45	-	-	6	0.86	1	0.25	-	-	8	1.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20	0.37	8	0.57	1	0.09	2	0.20	9	1.29	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	311	5.76	102	7.29	64	5.82	63	6.30	41	5.86	11	2.75	-	-	30	5.00
水痘	5	0.09	2	0.14	-	-	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	-	-
手足口病	36	0.67	6	0.43	14	1.27	4	0.40	8	1.14	4	1.00	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	25	0.46	9	0.64	2	0.18	2	0.20	2	0.29	-	-	-	-	10	1.67
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2023年 第20週 2023/05/15～2023/05/21)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	113	-	1	-	6	8	7	5	7	5	5	12	30	15	1	3	4	2	-	1	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	28	5	9	3	6	2	2	1	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	28	-	2	13	6	2	3	-	1	1	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20	-	-	-	-	2	5	4	3	2	2	1	1	-	
感染性胃腸炎	311	1	28	62	45	34	36	21	14	15	14	9	20	4	8
水痘	5	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-
手足口病	36	-	4	15	9	4	1	1	-	-	1	1	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	11	-	1	7	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	25	-	1	10	5	4	1	2	1	-	1	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

保健所別

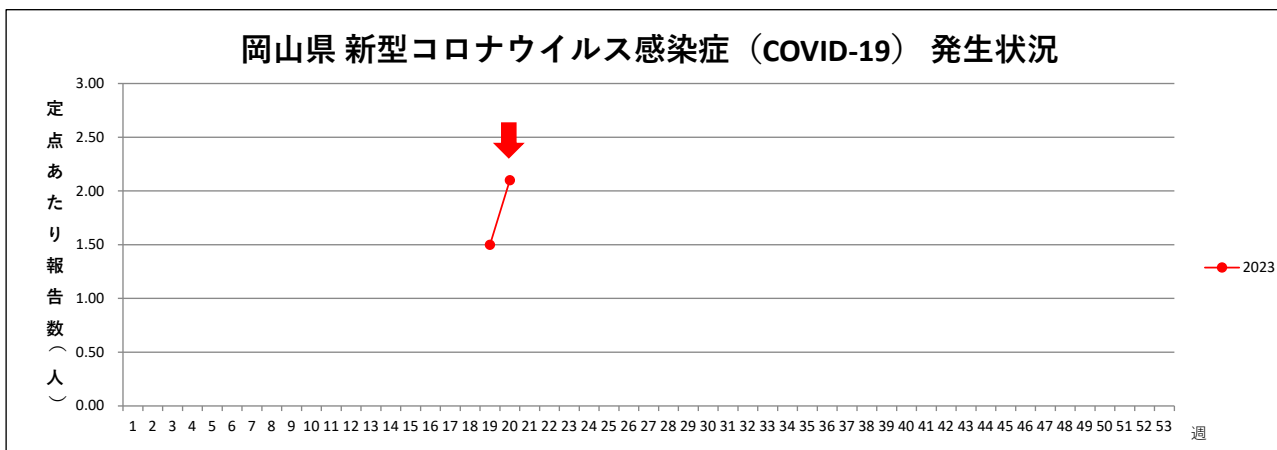
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	176	2.10	32	1.45	28	1.75	33	2.20	29	2.42	32	5.33	5	1.67	17	1.70

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	176	3	3	3	-	1	3	-	1	5	4	5	22	12	20	12	17	24	15	14	12

(- : 0)



全数把握 感染症患者発生状況

2023年 20週

分類	疾病名	2023		2022	疾病名	2023		2022	疾病名	2023		2022
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	81	247	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	3	11	66
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	4
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	4
	デング熱	-	-	3	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	1	9	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	14	47
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	5	10	ウイルス性肝炎	-	2	1	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	6
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		1	1	-	急性脳炎	-	4	10	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	-	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	5	後天性免疫不全症候群	-	-	6
ジアルジア症		-	-	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	4	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-
侵襲性肺炎球菌感染症		-	6	22	水痘(入院例に限る。)	-	4	4	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		3	88	197	播種性クリプトコックス症	-	-	3	破傷風	-	-	3
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	1	百日咳	-	13	17
風しん		-	-	1	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-
※	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	-	85,871	392,782		-	-	-		-	-	-

※新型インフルエンザ等感染症として2023年5月7日までに届出された患者数

